

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	火	5	1
日本思想史概論	日本出版文化史入門	2	引野 亨輔	4	火	2	2
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	3	金	2	3
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	4	金	2	4
日本思想史各論	「近代性」の問題から日本思想史を再考する	2	片岡 龍	5	月	4	5
日本思想史各論	日本近代思想史研究	2	岡安 儀之	5	金	2	6
日本思想史各論	高僧伝から読み解く日本仏教	2	引野 亨輔	6	月	4	7
日本思想史各論	日本の生命観・自我観再考・・・中国・朝鮮との比較を通して	2	小倉 紀蔵	集中(6)			8
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍	5	水	3	9
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔.片岡 龍	6	水	3	10

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB32501, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：

日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. 学習の到達目標：

日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』

第7回：原爆と日本思想史

第8回：戦後知識人の限界と課題

第9回：沖縄から考える（阿波根昌鴻1）

第10回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第11回：思想と運動

第12回：天皇をめぐる問題1（戦争責任）

第13回：天皇をめぐる問題2（「象徴」）

第14回：天皇をめぐる問題3（生前大意）

第15回：東北から考える（安藤昌益ほか）

6. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

7. 教科書および参考書：

『日本思想史ハンドブック』（苅部直・片岡龍編、新書館）

『東アジアの共通善』（邊英浩編、岡山大学出版会）

8. 授業時間外学習：

小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書および参考書の指定箇所を学習する。

9. その他：なし

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB42201, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本出版文化史入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the history of Japanese publishing culture

3. 授業の目的と概要：

かつて思想史研究は、著述に込められた作者の真意を読み取ることに力点を置いて進められてきた。しかし、近年盛んになりつつある読書の文化史研究により、思想史の方法は大きく転換した。まず、書肆によって書物に施される諸工夫が、読者の読解に大きな影響を与えるものとして注目された。さらに、読者たちの多様な「誤読」こそ、実は著述の意味生成に大きく関与していることが明らかになった。そこで、本授業では、こうした成果を踏まえつつ、作者・書肆・読者の緊張関係のなかで展開していく日本思想史の新たな形を探究する。

4. 学習の到達目標：

出版文化史に関する基礎知識を身に付けるとともに、多様な視点から日本の諸思想を考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

江戸時代における商業出版の成立に注目し、日本の出版文化史を概観する。

第1回：ガイダンスー読書の文化史の可能性ー

第2回：黙読から音読へ、卷子本から冊子本へ

第3回：寺院版から商業出版へ

第4回：京都書肆と仏書出版の隆盛

第5回：井原西鶴と『好色一代男』の衝撃

第6回：貝原益軒とその読者

第7回：共有知の広がり①ー『徒然草』『源氏物語』と江戸時代ー

第8回：共有知の広がり②ー『太平記』と江戸時代ー

第9回：文化東漸ー京都と江戸ー

第10回：江戸の文化プロデューサー 蔦屋重三郎

第11回：貸本屋と書物知の極限

第12回：蔵書家の誕生

第13回：近代社会と黙読文化

第14回：近世的書物知から近代的書物知へ

第15回：まとめ

期末試験

6. 成績評価方法：

各授業の終わりに課す小レポート 25%、期末試験 75%

7. 教科書および参考書：

教科書：必要に応じて資料を配付する。

参考書：『日本近世書物文化史の研究』（横田冬彦、岩波書店）、『近世の政治思想論』（若尾政希、校倉書房）

8. 授業時間外学習：

各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜 2 講時

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB35204, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本の木版本を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Japanese old books printed in woodblock prints

3. 授業の目的と概要：

江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗書も多く出版され、社会に大きな影響を与えた。

そこで、本授業では、江戸時代に出版された幾つかの木版本を取り上げ、その読解訓練を繰り返すことで、基礎的な史料読解能力の向上に努める。

なお、資料の物質性に着目するため、なるべく実物の木版本やそのコピーを提示しつつ、授業を進める。

4. 学習の到達目標：

江戸時代に出版された木版本の初歩的なくずし字を読解できるようになるとともに、木版本から江戸時代の文化的特徴を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

江戸時代に出版された通俗書のうち、手習い本と仮名草子を取り上げ、その読解と発表・討論を通して史料読解能力を鍛える。

第1回：ガイダンス—江戸時代と商業出版—

第2回：手習い本を読む①—『女大学』と貝原益軒—

第3回：手習い本を読む②—『女大学』と近世村落の現実—

第4回：手習い本を読む③—『女実語教』と居初津奈—

第5回：手習い本を読む④—『女実語教』と儒教・仏教—

第6回：仮名草子を読む①—『念仏草紙』と鈴木正三—

第7回：仮名草子を読む②—『念仏草紙』における因果応報観—

第8回：仮名草子を読む③—『念仏草紙』における唯心浄土思想—

第9回：仮名草子を読む④—『清水物語』と江戸時代の思想界—

第10回：仮名草子を読む⑤—『清水物語』の仏教批判—

第11回：仮名草子を読む⑥—『清水物語』における天道思想—

第12回：仮名草子を読む⑦—『祇園物語』の仏教擁護—

第13回：仮名草子を読む⑧—『祇園物語』における因果応報観—

第14回：仮名草子を読む⑨—『祇園物語』における神儒仏—

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

古文書読解能力をチェックする期末試験 40%、1人1回担当する課題発表 40%、授業中に実施する古文書読解チェック 20%

7. 教科書および参考書：

教科書：課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する。

参考書：『女大学集』（石川松太郎編、平凡社）、『新日本古典文学大系 74 仮名草子集』（岩波書店）

8. 授業時間外学習：

発表の担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、課題の読解は、受講者全員事前に行っておくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜 2 講時

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近代史料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading historical materials of modern period

3. 授業の目的と概要：

明治期に刊行された新聞の論説、投書、雑報記事などを精読する。また、その文献が有する思想的・同時代的意義についても検討する。

文献例：『東京日日新聞』、『郵便報知新聞』、『朝野新聞』、『読売新聞』、『時事新報』など。

4. 学習の到達目標：

日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 報告と質疑応答
- 3) 報告と質疑応答
- 4) 報告と質疑応答
- 5) 報告と質疑応答
- 6) 報告と質疑応答
- 7) 報告と質疑応答
- 8) 報告と質疑応答
- 9) 報告と質疑応答
- 10) 報告と質疑応答
- 11) 報告と質疑応答
- 12) 報告と質疑応答
- 13) 報告と質疑応答
- 14) 報告と質疑応答
- 15) 報告と質疑応答

6. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

9. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「近代性」の問題から日本思想史を再考する

2. Course Title (授業題目)：

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the problem of "modernity"

3. 授業の目的と概要：

日本の思想を「近代性」の問題から新たに捉え直そうとする挑戦的研究 (A テッサ・モーリス＝スズキ『日本を再発明する：時間、空間、ネーション』、B 酒井直樹『死産される日本語・日本人：「日本」の歴史-地政的配置』) を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. 学習の到達目標：

日本思想史における「近代性」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第1回：A「日本」

第2回：A「自然」

第3回：A「文化」

第4回：A「人種」

第5回：A「ジェンダー」

第6回：A「文明」

第7回：A「グローバリゼーション」

第8回：A「市民権」

第9回：B「近代の批判」

第10回：B「国民共同体の「内」と「外」

第11回：B「国際社会のなかの日本国憲法」

第12回：B「遍在する国家」

第13回：B「歴史という語りの政治的機能」

第14回：B「死産される日本語・日本人」

第15回：B「「西洋への回帰」と人種主義」

定期試験：なし

6. 成績評価方法：

平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：授業中に適宜資料を配付します。

参考書：「〈伝統と近代〉を問い直す satyāgraha(真理把握)-病める欧米的 modernity の末路に際して」(板垣雄三著、『霊性と平和』3)

8. 授業時間外学習：

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

9. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近代思想史研究

2. Course Title (授業題目)：

Research of Modern Japanese Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

日本近代思想史研究に関する代表的な論文を読む。発表者は担当論文を紹介し、参加者全員でその内容について討論を行う。以上のような作業を通して、当該分野の研究成果を理解するだけでなく、先行研究の問題点も明示できる能力を養う。

4. 学習の到達目標：

日本近代思想史に関する研究動向を把握し、その現状と課題について説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 報告と質疑応答
- 3) 報告と質疑応答
- 4) 報告と質疑応答
- 5) 報告と質疑応答
- 6) 報告と質疑応答
- 7) 報告と質疑応答
- 8) 報告と質疑応答
- 9) 報告と質疑応答
- 10) 報告と質疑応答
- 11) 報告と質疑応答
- 12) 報告と質疑応答
- 13) 報告と質疑応答
- 14) 報告と質疑応答
- 15) 報告と質疑応答

6. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ず論文を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

9. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB61401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

高僧伝から読み解く日本仏教

2. Course Title (授業題目)：

Deciphering Buddhism in Japan through biographies of high ranking monks

3. 授業の目的と概要：

日本社会に仏教信仰が定着するとともに、宗祖・高僧に関する多くの伝記が記されていった。

高僧伝は、文字通り徳のある高僧を顕彰するための伝記であるから、歴史資料としての客観性には乏しい。

しかし、高僧伝を無視して庶民層の仏教信仰は読み解き得ないし、また高僧伝に虚構が施される過程へと目を向けることで新たな史実が見えてくる可能性もある。

そこで、本授業では、幾つかの高僧伝とそれらに関する諸論文を取り上げ、受講生の発表・討論を通して、日本仏教史のより深い考察を試みる。

4. 学習の到達目標：

伝記資料を意識的に読み解き、日本社会の文化的・思想的特質を探究できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス—虚構が現実を超える時—

第2回：古代の聖徳太子伝説—『日本書紀』のなかの太子—

第3回：中世の聖徳太子伝説—四天王寺と法隆寺—

第4回：近世の聖徳太子伝説—讃えられる太子・批判にさらされる太子—

第5回：中世・近世の空海伝説—四国遍路の成立—

第6回：中世の法然伝説①—門弟たちの絵伝作成—

第7回：中世の法然伝説②—法然の女人救済—

第8回：近世の法然伝説—遠忌と加謚の近世浄土宗—

第9回：中世の親鸞伝説—親鸞伝説と覚如の苦心—

第10回：近世の親鸞伝説①—玉日姫伝説と考証主義—

第11回：近世の親鸞伝説②—本山の親鸞・庶民のなかの親鸞—

第12回：近世の親鸞伝説③—正統なる伝説のゆくえ—

第13回：民間芸能のなかの高僧たち①—掛幅絵伝と絵解きの隆盛—

第14回：民間芸能のなかの高僧たち②—江戸の悪霊祓師・祐天—

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業での参加度 30%、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については授業中に適宜指示する。

参考書：『変貌する聖徳太子』（吉田一彦編、平凡社）、『語られた親鸞』（塩谷菊美、法蔵館）、『江戸の高僧伝説』（堤邦彦、三弥井書店）

8. 授業時間外学習：

発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、各回ごとに適宜指定された資料・論文の読解を進める。

9. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：小倉 紀蔵 (非常勤講師)

講義コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本の生命観・自我観再考・・・中国・朝鮮との比較を通して

2. Course Title (授業題目)：

Rethinking Japanese Views of Life and Self ...A Comparative Study with China and Korea

3. 授業の目的と概要：

平安時代以降、近代にいたるまでの日本の生命観・自我観に関して、その代表的なものをいくつか取り上げて考察する。その際に、中国や朝鮮との比較の視点を重視する。具体的には、『源氏物語』、藤原定家、道元、西田幾多郎、鈴木大拙、和辻哲郎、丸山真男などに関して議論する。比較の対象としては孔子、朱子学、陽明学（以上中国）、朝鮮朱子学、北学、東学、主体思想（以上朝鮮）などを重点的に取り上げる。

4. 学習の到達目標：

日本思想を考察する際に、いわゆる日本という枠組みを超えて中国・朝鮮との比較という観点を重視する姿勢を身につけること。とくにこれまで視野の外に置かれがちだった朝鮮との比較は、今後の日本思想研究にとって重要性を増すであろう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

これまで人類が明確に認識してきた生命観・自我観とは異なる種類の生命観・自我観があるのではないか。授業ではまずこのような問題提起をする。

それはたとえば生命観でいえば、肉体的・生物学的生命でも、キリスト教的な霊的・精神的生命でもない、ひととひとの「あいだ」、ひととものの「あいだ」に立ち現われる生命である。本居宣長が『源氏物語』の核心として「もののあはれ」といったのは、このことを指していると思われる。

生命だけでなく、自我やもの、こころ、身体に関しても、このような「あいだ」に立ち現われる種類のものがあると思われるし、日本思想はそのことにきわめてコンシャスであったと思われる。

このような日本思想の特色は、たとえば中国や朝鮮と比較してみると、どのように説明できるのか。授業では以下のような具体的な事例を重点的に取り上げつつ、ほかの思想にも随時言及する。

- 第01回 日本の生命観・自我観・もの観・こころ観・身体観の様々な事例
- 第02回 検討の方向性：大森荘蔵の「物と心」論の再解釈
- 第03回 中国儒学および朝鮮思想における生命観・自我観の概説
- 第04回 『源氏物語』の「あはれ」と『論語』の「仁」
- 第05回 藤原定家における自我と自然
- 第06回 道元の「脱落」と朝鮮禪
- 第07回 西田幾多郎の「場所」「述語」と陽明学、朱子学
- 第08回 朝鮮の東学思想
- 第09回 鈴木大拙の「日本的霊性」と陽明学、東学（朝鮮）
- 第10回 鈴木大拙のコロンビア大学講義について
- 第11回 朝鮮の北学思想
- 第12回 北朝鮮の主体思想
- 第13回 丸山真男の「近代」と北学（朝鮮）、主体思想（北朝鮮）
- 第14回 日本語の美意識と朝鮮語の美意識
- 第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席および議論）50%、レポート50%。

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

配布されたプリントその他の文献を熟読しつつ、自分独自の思考を構築する努力をする。

9. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文のテーマの決定

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔, 片岡 龍 (教授、准教授)

講義コード：LB63302, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：

前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文作成の準備と研究内容の深化

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』ミネルヴァ書房
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし